

# 第1学年1組 算数科学習指導案

令和2年11月26日 木曜日 第3時限

1 単元 おおきいかず（14時間完了 本時 10/14）

## 2 目標

- ① 100までの数や100を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較ができる。（知識・技能）
- ② 100までの数を「10がいくつと1がいくつ」、100をこえる数を「100といくつ」という見方でとらえることができる。（思考力・判断力・表現力）
- ③ 100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気づき、身のまわりから進んで100までの数字をみつけようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

## 3 構想

本学級の児童は、「10よりおおきいかず」の単元では、「2飛び」や「5飛び」の数の数え方ができるようになった。しかし、数の大小や数の系列を考えずに、問題に取り組む様子も見られた。そこで、数図ブロックや指を使って、一つ一つ考えるようにうながすことで、問題を解くことができる児童が増えてきた。一方で、数が多くなると、情報量が多すぎて操作の見通しがもてない児童がいる。そこで、本単元では、数え棒やお金の模型等の具体物を有効に活用し、100までの数や100を少しこえる数に親しみながら、スモールステップで正しく問題を解く方法を学ばせたいと考える。

本単元は、数の系列を理解し、大小を判断できるように活動をする。そうすることで、100までの数や100を少しこえる数の見方を豊かにすることができる。また、数を十進位取り記数法における2位数としてとらえさせるために、10のまとまりがいくつと1がいくつという数の構成について学習する。そのために、数の言い表し方をおさえたり、数え棒などの具体物を使ったりして、10のまとまりとばらいくつあるかを考えて、全体を数えるという数学的活動を取り入れる。数が多くなると、情報量が多すぎて操作の見通しがもてない児童にとって、具体物を使ったり、数学的活動を多く取り扱ったりすることで、数を整理できると考える。

本単元では、今までに学習した「2飛び」、「5飛び」などの数え方や、お金のいろいろな出し方をくま手チャートにまとめることで、児童の考えを整理しながら活動を進めていく。また、数え棒や数図ブロック、お金の模型などの具体物を用いて、児童が操作する活動を多く取り入れることで、文章や具体物だけでは理解することが難しい内容も理解しやすくなると考える。さらに、実生活と繋げながら授業を展開することで、数の感覚が豊かになるとともに、生活場面に算数が活用できることに気づき、数の合成分解をすることができる児童の姿を期待する。

## 4 単元計画

活 動 内 容	時間	教 師 支 援 (思考を深めるためのスキルとツール)
1. 数詞と具体物（数え棒）を対応させ、20をこえる数を工夫して数えて、棒の数が分かりやすいように並べる。	1	○「10よりおおきいかず」で学習した数の数え方を、くま手チャートを使って既習の法則を整理しながら、復習する。 ○数詞と具体物の往復をし、数の構成の理解を深める。
2. 位取り板と数え棒を使い、10の束とばらに分けて並べることで、十の位と一の位に数字を書いて、大きい数を表す。	2	○数え棒では、理解が難しい場合、数図ブロックを使って考えさせる。

3. 具体物や100までの数の図表を用いて、100までの数の数え方や表し方、数の大小、系列や順序を確認する。	5	○具体物を数えることで、「100」という数字について理解させる。
4. 身のまわりで100までの数が使われている場面を調べ、数字を使う良さについて考える。	1	○ <b>教直線</b> を使って、身の回りから「100」までの数字を見つける。
5. 買い物場面での、いろいろなお金の出し方を考えたり、その出し方の良さについて考えたりする。お金の模型を使い、おかいものを疑似体験する。	2 本時 (1 / 2)	○教師が <b>くま手チャート</b> を用いて板書をし、児童の意見をまとめることで、 <b>お金のいろいろな出し方を整理</b> して考えさせる。 ○お金の模型と手作り財布を使って、おかいものごっこをすることで、実生活と繋がっていると認識させる。
6. 数詞と具体物(数え棒)を対応させ、100をこえる数を工夫して数えて、棒の数が分かりやすいように並べる。	2	○100をこえる数の、表や数直線の穴埋め問題を繰り返し行い、100をこえる数の順序について理解させる。
7. 本単元の振り返り問題を解き、学習内容の理解を深める。	1	○半具体物や具体物を使うように促すことで、10のまとまりや位取りを想起させ、問題に取り組ませる。

## 5 本時の学習指導

### (1) 目 標

- ・買い物場面で、いろいろなお金の出し方や出しやすさを考えることができる。

(思考力・判断力・表現力)

### (2) 思考を深めるための手立てと思考スキル

- 教師が**くま手チャート**を用いて板書をし、児童の意見をまとめることで、お金のいろいろな出し方を整理して考えることができ、出しやすさにも気付くようにする。

### (3) 展 開

時間 (分)	学 習 活 動	教 師 支 援
導入 (5)	1. お金の模型を操作しながら、いろいろな種類のお金があることを、確認する。  2. 28円のトマトを買うときに、どんなお金の出し方があるか発問し、本時の課題を考える。	・教員がお店屋さん役になり、野菜や果物、レジの模型を見せることで、本時への学習意欲を高める。 ・本時で扱う1円玉、5円玉、10円玉の模型を、児童に操作させ、確認させる。 ・児童のつぶやきを拾って、課題設定をする。 ・課題設定をした後に、プリント・カードを配付する。
展開 (30)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           おかいものでは、どんなおかねの出したかがあるか、かんがえよう。         </div> 3. お金の図や具体物を使いながら、28円のお金の出し方を考える。  4. 28円のお金の出し方について、グループで話し合う。	・活動4の前に、5円玉5枚と1円玉3枚の書き方を、全員で統一して行う。 ・カードにお金の図を載せ、枠を囲むだけにして、児童の思考が止まらないようにする。 ・お金の図で考えるのが難しい児童には、お金の模型を使うように促す。 ・班隊形にし、班長が話し合いを進めるように、指示を出す。

